

## 岷江事故経過及び搜索活動報告

6月26日(金)

09:10 汶川より航行開始

- ・前日の偵察で危険と判断した瀬をジープで回避し、また、ザイルでボートを流す。

13:30 ジープで回避(2度目)し、再び航行開始

- ・サポート2台は、思いがけない落石で道を塞がれている。サポートが出来ないので、航行を一旦止めるよう指示するため、加藤がボートを追いかけて走る。

13:35 事故発生(加藤、転覆を発見)

- ・本日の最後の瀬と考えていた瀬を乗り越えた直後に転覆する。
- ・直後は短い瀬場。村上是裏返ったボートに撞っており、他の3人は岸に向かって泳ぐも甲斐なく次の瀬に呑み込まれる。

13:40 山下、大西が左岸に辿り着く。他隊員を捜す為、現地中国人の車で下流へ向かう。途中、ボートと共に流れる村上を発見するが、救助不可能なため下流のダムへ向かう。加藤はボートメンバーを追いかける為、現地中国人の自転車や車で下流へ向かう。

13:45 岩根が左岸に辿り着く。そのまま15分程意識を失う。

14:00 岩根は、協力隊員がヒッチして来た車に乗り込む。

14:10 山下、大西、ダム到着

14:20 岩根、ダム到着

- ・ほぼ同時にボートがダムを通過して行く。回収は出来ず。
- ・村上が流れて来るならば、ここを通過するので、ザイルを用意して村上を救助するべく待機する。

14:40 村上は、まだ流れて来ないので、上流部に漂着している可能性ありとして、岩根が再度上流へ向かう。(ダムの車で協力員と共に)山下、大西は引き続き待機する。途中、中国人の車をヒッチして来た加藤と合流する。サポート車2台も合流する。その2台に分乗して加藤は上流へ、岩根は下流へ搜索に向かう。

16:30 ボートの通過時間より、村上は上流部にいるものと判断する。山下、大西は転覆の影響で体調不良のため、ダム管理所にて待機する。

17:00 岩根はダムに戻り、山下、大西と共に再び上流へ向かう。

18:00 上流部を搜索していた加藤と合流し、下流へ戻る。

19:00 ダムに戻るが、情報はない。

19:15 灌县へ向かう。

21:30 灌县人民政府招待所(柳河賓館)到着

### (岷江遠征隊搜索記録)

6月26日(金)

22:00 日本連絡本部(安川)に国際電話で事故発生の連絡

- ・灌县人民政府外事弁公室主任陳氏に会い、各県、郷、鎮の公安局に

### (遭難対策本部記録)

6月26日(金)

22:00 第1報【大阪(安川宅)】

〈事故発生と現在の状況報告〉

- ・安川より各派遣委員、一部現役及び村上の親族辻家へ連絡する。

事故発生の連絡が渡っていることを知らされる。乐山まで手配されているらしい。

6月27日(土)

00:20 第2報【灌县(岩根)】

〈搜索状況の報告〉

01:15 第3報【灌县(岩根)】

〈同上〉

07:07 第4報【灌县(岩根)】

・08:30搜索隊(山下, 加藤, 大西)  
が転覆現場〜ダム間の搜索に向かう予定である。

09:30 現地連絡本部(柳河賓館)に岩根が残り、他3名は転覆現場〜ダム間の搜索に向かう。

11:35 現場より6km下流の地点で、26日15:30頃、村人によって引き上げられていたボートを発見し、回収する。  
《P35地図参照》

12:00 第5報【灌县(岩根)】

・現地の搜索状況に変化はない。

14:00 第6報【灌县(岩根)】

〈搜索状況の報告〉

15:40 27日13:00頃、村人に引き上げられていた村上のライフジャケットを回収する。《ボート発見地点と同じ場所》

ライフジャケットはズタズタに裂かれており、中のウレタン、ファスナーは飛び出てなくなっていた。

・(株)タンクに臨時対策本部を設置する。  
(派遣委員及び現役、計14名)

6月27日(土)

00:20 第2報【大阪(タンク)】

〈搜索状況の確認〉

01:15 第3報【大阪(タンク)】

〈同上〉

・村上の伯父川上章氏へ連絡をする。

01:32 外務省領事二課(中国課)へ電話連絡

・事故発生の報告及び救援隊のビザ発給を問い合わせる。

07:07 第4報【大阪(タンク)】

〈搜索状況の確認〉

09:00 関西大学学生課に遭難対策本部を設置

・外務省領事二課、中国総領事館、中国大使館、日本国大使館などに事故報告並びに協力要請をする。

12:00 第5報【大阪(泉井)】

・ビザ取得の為、現地から日本大使館に連絡を入れ、中国総領事館に働き掛けるよう指示する。

・各報道機関、事故発生の情報を入手し、本部へ訪れる。(新聞4社、放送2社、通信1社)

14:00 第6報【大阪(泉井)】

〈搜索状況の確認〉

16:00 第7報【灌县（岩根）】

- 現地の状況は、約20名の搜索隊員（公安局、河川局所属）が要所要所で搜索している。
- 村上を最終確認した地点よりダムまで、10kmおきくらいに小さな村があり、対岸は道路側からよる見える。
- 岩根は、激流に揉まれたためか、頭痛を訴え病院に行く。

17:20 柳河賓館帰着（27日搜索活動終了）

19:35 第8報【灌县（岩根）】

- 村上を最終確認した地点よりダムまでは、80～90%搜索を終えている。

22:50 第9報【灌县（岩根）】

- 岷江の水量は増加、水位は少し上昇している。

6月28日（日）

08:45 第10報【灌县（岩根）】

- 本日は9:00に出発し、ダムから都江堰を過ぎた辺りまで搜索する予定である。岩根は現地連絡本部（柳河賓館）に残る。岩根体調回復。

10:05 前日同様、搜索へと出発する。

11:15 26日16:00頃、村人によって引き上げられていた村上のヘルメットを回収する。

（ボート発見地点と同じ場所）

12:17 第11報【灌县（岩根）】

- 外事弁公室主任に陳氏と面会出来るように、成都旅游公司を通して依頼する。（ヘリコプター出動などの協力要請）
- ダム～都江堰間は、上流半分は瀬で、下流半分は速めの瀬場。

16:00 第7報【大阪（泉井）】

- 岩根は現地へ行って搜索状況を確認し、次回交信（20:00）で連絡することとする。

- 各新聞紙夕刊、TVイブニング・ニュースで事故が大きく報道される。

19:35 第8報【大阪（宮本）】

- 救助隊の上海から成都行の便（29日）を、確保せよと指示。

20:05 川上氏より連絡

- 28日17:00大阪発の便で、安川と共に上海に発つ意向である。

22:50 第9報【大阪（宮本）】

〈搜索状況の確認〉

- ヘリコプターでの搜索の可能性を追求せよと指示。

- 現役部員3名（清水、三春、海堀）を緊急連絡員として学生課に残留させ、27日の活動終了する。

6月28日（日）

08:45 第10報【大阪（宮本）】

〈搜索状況の確認〉

09:30 各代OB、顧問教授続々と集まる。（計27名）

12:17 第11報【大阪（宮本）】

- 国際交流協会吉田氏に紹介された四川省人民政府副首席の天宝氏にも連絡して、ヘリコプターの出動を打診するように指示。

13:00 27日8:30頃、貯木場で村人によって引き上げられていた村上の左足ブーツを回収する。

13:20 26日14:00頃、同地点で村人によって引き上げられていた右足ブーツを回収する。

- ここで、26日午後、貯木場の材木の下に男性の裸死体を目撃した村人があることをきく。死体回収のため、材木を順次撤去すること。

14:05 第12報【灌县（岩根）】

- 天宝氏との連絡が取れ、通訳を通してヘリコプター出動の依頼をする。
- 日本総領事館より、救助隊が上海到着の際は一報を願うとのこと。

17:00 柳河賓館帰着（28日搜索活動終了）

18:05 第13報【灌县（岩根）】

- これまで回収した村上の装備等は、全て現地連絡本部で保管してある。
- 23日頃两河口において、車両が川に落ち8人死亡。この事故の未収容遺体が出てくる可能性がある。

21:35 第14報【灌县（岩根）】

- ヘリコプター出動の件は、なお交渉中である。

6月29日（月）

01:40 第1次救援隊、灌県の柳河賓館に到着

- これまでの搜索状況の説明をする。
- この時点で岷江遠征隊は解散し、安川隊長の指揮下、村上哲也搜索隊となる。

14:05 第12報【大阪（宮本）】

- 岷江遠征隊隊員は、今夜各家族に電話をするように指示。

17:00 第1次救援隊（安川隊長、川上氏）、大阪を発ち上海へ向かう。

18:05 第13報【大阪（宮本）】

- 救援隊は予定通り出発する。トランシーバー3台、双眼鏡3台を携帯している。

20:40 安川隊長、上海より連絡

- 上海にて、日本総領事館西山領事の出迎えあり。22:00発の便で成都へ行き、何とか灌县まで着ける。

21:35 第14報【大阪（宮本）】

- 7/4前後に、第2次救援隊（4～5名）の編成も考えている。

22:00 本部、28日の活動終了、全員帰宅

6月29日（月）

09:15 第15報【灌县（安川）】

- ・外事弁公室主任陳氏と面会。ラジオで付近の村人に事故に情報を流して貰う。

10:30 安川、山下は転覆現場へ向かい、大西は貯木場の遺体引き上げ作業に向かう。加藤はヘリ出動に備えて待機。岩根、川上氏は連絡員として賓館に残留する。

14:23 第16報【灌县（安川）】

- ・安川は転覆現場から貯木場へ移動する。流木の撤去は、午後からの作業で終了予定である。
- ・捜索体制は、相変わらず20人前後という状況。

15:35 加藤と川上氏が貯木場へ向かう。

18:00 貯木場より死体一体が回収されるが、判別不可能の状態。臭気はかなりきつく、後の検死を待つ。

19:30 第17報【灌县（安川）】

- ・映秀と旋口の間に貯木場があり、発見物は全てそこより出ている。
- ・（現地からの質問）
  - ①3日間激流に揉まれた場合、ウェットスーツはどうなるのか？
  - ②3日間水中に没したままの場合、死体は臭うのか？

20:38 18:00引き上げられた死体は、検死の結果女性と判明。死後20日以上経過しており、村上と全く関係なし。また、同貯木場にはこの死体の他にもさらに2～3体の死体があるらしい。

21:35 第14報【大阪（泉井）】  
〈捜索状況の確認〉

14:23 第16報【大阪（泉井）】

- ・捜索活動中の滞在費を調べること。

15:20 学生課（小川部長、大津課長、浜口課長補佐）を交えて会議する。

- ・日本総領事館の若山領事の話では、「北京大使館と協力して、ヘリコプター出動の件で中国側と交渉中であり、費用は不明だが出来るだけの事はする」との報告。

19:30 第17報【大阪（泉井）】

- ・緊急会議の報告（ヘリコプター出動の件、大学側の意向について）

22:00 本部、29日の活動終了、全員帰宅

6月30日(火) 第18報【灌县(安川)】

09:06 第18報【灌县(安川)】

- 27日の事故現場～ダム間の搜索は、50%程度と判断する。
- 貯木場は4つあり、その最も上流部の貯木場(1)において全ての物を発見されているので、今後ここを中心に搜索をする。13:00に全員集合する予定。

17:21 17:00頃成都旅游公司より協力員へ連絡があり、その内容を岩根が伝え聞く。「成都から西へ20km程離れた温江という町で、25才以下の男性の死体が発見され、地元公安局は村上と確認している」

17:53 川上氏、岩根が報告確認の為、遺体を安置してある温江の火葬場へ向かう。

18:58 火葬場にて、着用しているウェットスーツから村上哲也であることを確認する。

20:15 第19報【灌县(安川)】

- 遺体は非常に損傷が激しい為、茶毘に伏して帰国する意向である。
- 以後、遺体発見現場近くの柳城賓館(温江)へ移動する。

21:10 温江の人民政府招待所(柳城賓館)にて、遺体発見から回収迄の経緯を公安局の人から聞く。

- 09:50通平郷より公安局へ遺体発見の電話がある。公安局より医師を含む6人が現場へ向かう。
- 11:00現場に公安局の一行が着く。河岸から150m程離れた中洲へ船を出し、そこで遺体を収容する。

6月30日(火) 第18報【大阪(泉井)】

09:06 第18報【大阪(泉井)】

- 現地からの2つの質問を返答する。
  - ①3日間激流に揉まれた程度では、ウェットスーツは変形しない。
  - ②16℃位の水中では判らないが、20℃の空气中では急速に腐敗が進行する。

10:35 西山領事(日本総領事館)より連絡。

- 出国時の遺体管理、検疫は、西山氏が代行する。

16:45 小塩氏(外務省領事二課)より連絡

- 現地から電報が入り、「本日(30日)遺体を収容し、現在身元を確認中である」とのこと。

20:15 第19報【大阪(泉井)】

〈遺体発見の状況確認〉

22:00 第20報【温江（安川）】  
・明日（7/1）午前 中公安局へ行き、解剖の認証に4時間位費やすそうである。

7月1日（水）

09:30 川上氏、岩根、加藤の3名、通平郷の遺体発見現場へ向かう。

11:35 第21報【温江（安川）】

・北京から中国国際体育旅游会社の総経理、王富洲さんが来訪される。

12:20 川上氏、安川両名の立ち合いの下、遺体の解剖が始まる。

17:55 遺体の解剖終了後、火葬に移る。

19:25 第22報【温江（安川）】

・出国時、または帰国後に必要な4種公的証明書（死亡診断書、死亡した事に関する公証書、遺骨を持ち帰国する事の公証書、遺骨の出境許可証）を請求中である。

20:30 火葬場へ遺骨を受け取りに行き、成都へと向かう。

7月2日（木）

18:45 必要書類は完備、成都から上海へ移動。

7月3日（木）

15:20 上海発

17:20 大阪着、伊丹空港へ大津学生課長、探検部長、OB会役員、現役他、関係者出迎えへ

18:00 関西大学学生課会議室にて、『帰還式』を執り行う。安喜学生部長代理他、焼香をする。その後、川上氏は遺骨と共に金沢へ帰られる。探検部よりOB小野、主将三春が同行。

7月5日（日）

11:00 金沢（光徳寺）にて村上哲也君の告別式が行われる。吉村経済学部代表、小川学生部長、大津学生課長他、探検部関係者が出席する。

7月18日（土）

関西大学天六学舎にて第1会報告会開催、事故調査委員会発足、遭難対策本部解散

7月19日（日）～26日（日）

大津学生学生課長と探検部部長代行泉井が事後処理及び挨拶回りのため、中国を訪問。遺体発見の地、温江に遭難碑を建立する。

22:00 第20報【大阪（泉井）】  
〈以後の予定の確認〉

・本部、30日の活動終了、全員帰宅

7月1日（水）

11:35 第21報【大阪（泉井）】

〈以後の予定の確認〉

19:25 第22報【大阪（泉井）】

・本学で『帰還式』を執り行う旨、川上氏に通知する。

22:00 本部、1日の活動終了、全員帰宅

7月2日（木）～3日（金）

『帰還式』及び出迎えの準備

# 事故発生～村上発見迄の概略図

